

色彩についての講座 土屋 政夫

第五回 ■ 混色について

前回までは理論中心でしたが、今回の混色は絵の具の混ぜ方の技法です。

第二回での記述通り、三原色で(シアン・マゼンタ・イエロー)で理論上全ての色相を作れることを念頭に置いて下さい。そして混色すればするほど彩度と明度が下がる事も。

色を混ぜる場所を三つに分類します。パレット上「キャンバス上」目の中「」になりまず。パレット上「からの説明です。

まず、パレット上「からの説明です。色環上で混ぜる二色間の角度が広がる程、彩度明度共に落ちます。白と黒を除き多色の混色は避け、ここで複雑な色を作るうとしないで下さい。

次にキャンバス上の混色です。キャンバスにパレット上で作った二色を乗せ、乾かないうちにそこで筆などで混ぜるので。二色間の諧調を作ったり、混ぜ方を少なくすればマール状の斑模様を作れます。水彩の落とし込みのじみもこちらになります。先に塗った乾いた色に色を重ねる塗り重ねも混色です。油やアクリルも同様な事が出来、溶き油やメジウムも同様な事が出来、表現が可能です。透明メジウムに少量の色を加え凹凸が出るように描くと、凸の部分の下の色を隠し、凹の部分は透けて見えます。不透明水彩絵の具として完全に下の色を隠蔽出来る訳ではありません。他の画材とは違った重ね塗りになります。

目の中の混色ですが、スーラなどが用いた点描画の技法を指します。これは彩度、明度が落ちないと言われています。印象派の筆触分割(タッチを残した彩色)の発展系です。ここでは点描ではない技法でその効果を実現する方法を記述します。画面上に凸凹(マチエール)を作り、その山や谷に色を乗せていく方法で描きます。結果、目の中で混色されたことになりまず。

この三つの混色方法を上手く使い分けて豊かな表情を表現して下さい。少し具体的に話しましょう。最初にマチエール作りです。キャンバスの目もその一種です。(荒・中・細目)そこに地塗りの絵の具を筆、ローラーやナイフで塗ります。また、砂や貝殻を混ぜてもいいでしょう。モデリングペーストなどマチエールも市販されています。絵のテーマに沿って使い分けれます。単純に凹凸を付けたい訳ではありません。フォルムや主体物を意識してマチエールを作るのは大切な作業です。この凹凸が描画中最後まで影響します。不要な突起と感したら早めにスクレーパーで削ります。紙、キャンバス等の基底材、地塗り、マチエールの重要性を再認識して下さい。

マチエールの山に絵の具を乗せるには、固めの絵の具を筆やナイフの腹で表面を滑らせます。谷に絵の具を入れるには薄く溶いた絵の具を塗ってから山の部分をナイフや雑巾で拭き取ります。別の方法は重ねた色が乾燥後、山の部分をナイフやサンドペーパーなどで削って行きます。メジウムで溶いたもので描いても山や谷への入り方が異なるので、また違ったディテールになります。山の部分の方が明るい暗いによって随分印象が異なります。山の部分が暗いと、汚れに見えてしまう事が多い様です。描いたり、拭いたり削ったりして、目的の色調になるように作画していきます。いずれにせよ乾燥後に手を加えることが大事で、そうでないと、キャンバス上で混色したことになります。

陰影をつける時に混ぜる絵の具を特定しておくのも一法です。例えば暖色系の絵であればバントアンバー。寒色系の絵であればウルトラマリンとかです。これまで色々述べてきましたが、頭で考えるのはヒントです。実際に描き自分の目と体で体感して下さい。そして自分の感性を信じましょう。

これで、色彩についての講座は終わりです。描画のヒントになって貰えれば嬉しい限りです。

第四十回記念展 アンケートから考える 富岡 侖

森屋代表をはじめ新体制がスタートしてから早二年が経過しました。年に一度の東京都美術館で開催される本展終了後、事務局が重要八項目を決め、開催の実行・運営に携わった委員、会員を対象にアンケートを実施しました。

回収されたアンケートの集計から要改善事項、反省点など公募団体としての新日美の今後のよりよい在り方を探りたいと思います。回答のすべてを掲載出来ないで、同類の多かったものを報告いたします。

アンケート集約結果の要約と検討課題

搬出入

- ① 現状で良いが会員にも手伝わしてもらおう
- ② パソコンによる処理・活用が不可欠。
- ③ 今回は会計窓口を搬入手続テーブルと別にしたので独立、分かりやすく良かった。

審査

- ① 審査員の入れ替え制が良い。
- ② 平均的・常識的な作品を選ぶ傾向にある。
- ③ 工芸全般を審査するのは難しい、会全体で考え、取り組む必要あり。
- ④ 現状の挙手方法は周囲の審査員の影響を受けやすい。スイッチ式にしてどうか。

展示

- ① 各室のコンセプト、性格付けは良かったがどの程度内外にアピール出来たかは疑問。
- ② 工芸室はゆとりがあつて良かった。
- ③ 一室は会の顔なので、相応しいものを。
- ④ 四室は日本画、水彩画、水墨画があり、やや混み合っていた。苦情が出た。
- ⑤ 九室は点数が多いので飾り付け委員を増員したい。
- ⑥ 一般応募者の中には「一般の部屋」との認識がなく、奥であることにガツカリした人がいた。分かり易い展示案内が必要。

役割

- ① 広く会員に声を掛けて役割分担の手伝いをしてもらいたい。
- ② その意味でも支部毎の参加は良かった。

- ③ 役割を担った全ての会員が一目瞭然に仕事に分かるような「分担表」を作るとよい。
- ④ 会場係には腕章、バッジなど一般見学者に分かるように付けたらどうか。

ギャラリートーク

- ① 新人・初心者にとっては懇切丁寧で今後の指針となつて良かった(絵画のみ)
- ② ベテランにとっては常識的、新鮮味なし、マンネリ化(絵画のみ)
- ③ 工芸部門にも外部審査員、講師者が欲しい
- ④ 芳賀先生、中野先生以外の日に審査員等が自作品の解説を行う方法もある。
- ⑤ もっと宣伝を。

ワークショップ

- ① 工芸部皮革、山崎委員が中心となり「ミニトレイ」を作りました。
- ② 大変良い試み、続けて欲しい。
- ③ 企画・実演するのは準備等大変だが、一般来場者が多く楽しんでいて素晴らしい。
- ④ 好評、初めての試みで事前告知、宣伝をしていなかったため、知らない人が多かった。

講評

- ① 表彰式における受賞作品のスライドによる講評はとても良かった。
- ② 工芸受賞作品や工芸に対しての講評が全くなかったのは残念。
- ③ 美術年鑑社、芸術新聞社からの来賓者にも講評してもらった方がいい。
- ④ 総評の時、森屋代表から工芸部門受賞作品へのコメントがあつても良かったと思う。

ポストカードその他

- ① 作品に対してもう少し質のいいポストカードが欲しい。
- ② ポストカードの販売スタンドが不足気味になつてきた。(土屋委員のお手製です)
- ③ 場内誘導POPの準備や備品用意が不十分。
- ④ 今年初めて委員として仕事を担当し、とても勉強になった。

アンケートから何を感ずたでしょうか?委員会ではよいことは継続、改善を要する事項は、可能なことから鋭意実行すべく検討しております。